

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700476		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	グループホーム「ファミリーケア北方」(南家)		
所在地	岐阜県本巣郡北方町柱本3丁目88番地		
自己評価作成日	平成22年11月19日	評価結果市町村受理日	平成23年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170700476&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者福祉に対する配慮が地域のどこに行っても当然のように受けられ、認知症に対しても様々な人達が理解を深められるよう地域に開かれたサービス、又地域住民との交流の元に福祉に対する理解の向上に努め、地域の一部となれるよう活動していく。具体的に、ボランティア活動の提供の場として、毎月一回ボランティアの方による映画観賞会、音楽療法、地元の高校生によるアニマルセラピーを実施。入居者には馴染みの映画や最近話題の映画が見られる、季節の歌を歌うことで季節を感じられる、高校生や動物とふれあえる等楽しみにされている。又、自治会や民生委員の皆様の御協力で地域の行事に参加させて頂き、入居者の方々が積極的に地域に参加できるような機会を作ることに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体の、3ユニットのホームである。ユニットそれぞれが独自の個性を持ち、食事内容も独特な献立となっている。ホームには、子育て支援施設のサロンがあり、利用者が乳幼児とその母親と交流できる場所になっている。法人の方針で、定期的に家族アンケートを取り、その結果をサービスの向上に反映させている。本人・家族の希望をケアに活かすことで、相互信頼を深め、生きがいのある、楽しい暮らしに繋げている。利用者が安心して最期まで暮らせるように、24時間の看護体制と適切な医療を提供し、地域社会と積極的に関わりながら、利用者の思いに寄り添うケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票 (南家)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念は「家庭的な環境と地域住民との交流の元で楽しい生活を提供すること」である。日々理念に基づく行動が出来るよう職員は理念を記入した用紙を名札に携帯し遂行できるようにしている。	「家庭的な環境と地域住民との交流で楽しい生活を」という地域密着の理念としている。理念は、職員の名札に明記し、常に意識することで共有し、地域の人々と交流しながら楽しい生活を提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番の設置、小学生のボランティア受け入れ、母親と子供同士が触れ合える場の提供等、子供が遊びに来やすい場を作る。又、自治会長の支援により、町民運動会や消防訓練、祭り等、地域活動に参加している。	事業所内に、子育て支援サロンも設け、地域の乳幼児とその母親が訪れ、利用者と触れ合っている。地域の運動会や発表会見学などに積極的に参加している。法人の夏祭りには、多くの住民が訪れ、交流の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で北方の理念の報告、各種外出行事や地域への活動予定を報告する。特定高齢者に対する介護予防事業への参加等。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。入居者状況、事業所独自の活動報告、積極的な意見交換を行っている。「地域にある施設」ということを理解して頂けるよう地についた運営、職員の力量の向上に努めるべきとの意見に地域活動への参加、各研修の参加を積極的に行い、向上に努めている。	運営推進会議は、行政や地域包括支援センター・民生委員・日赤奉仕団・自治会役員・家族代表が参加している。会議は、ホーム行事と併せて開催し、運営報告と気軽に意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	会議には、家族の自由な参加を促しながら、具体的な議題を討議し、会議の持つ機能がより高まるよう、今後もさらなる取り組みと活性化に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所での行事等に対しても案内をお渡しし、参加の協力を頂く際、意見や理解を求め、事業所内のサービス向上に努めている。又、運営推進会議に出席頂き、意見を頂く。	行政とは、事業運営や新しい介護サービスの展開について協議を重ねている。法人とホームのみならず、地域全体の総合支援と福祉の質の向上を目指し、具体的な取り組みについても協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束については、最低限してはいけないルールだと把握しており、行われたことはない。又、法人で行われる研修にも参加している。	法人全体で、外部・内部研修の受講に取り組み、何が拘束に値するのかを常に話し合い、拘束のないケアを行っている。玄関は開放され、1階と2階も自由に行き来できる開放的な環境となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々職員は虐待に対して、してはいけない行為であると把握している。又、新人研修や法人で行われる研修に参加している。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者に成年後見制度を受けている者はいないが、職員間で過去に制度を受けていた利用者の情報共有や研修等で制度的な理解を深め学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず事前訪問を実施。本人の状態を家族やケアマネジャー等から聞き取り、確認する。契約時には重要事項説明書を参照。料金の説明を実施。又、申込時はパンフレットによる概算の説明もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	顧客満足度調査を実施し、苦情や要望を聞き対応している。又、契約時に重要事項説明書にて公的窓口を説明。玄関先には苦情受付BOXを設置している。来所時にはご家族へこちらから声を掛けて話ができる雰囲気作りを、面会の少ないご家族には定期的に電話にて状況を報告している。	家族は毎月1回は来訪し、希望や意見を聞く機会にし、また、便りと共に個別の状況を報告し、電話でも随時、意見を聞いている。家族からは、ボランティア活動への参加などの提案があり、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自ら法令集等に目を通し、リーダーミーティングを定期的に行い、その内容を各職員に説明して職員の運営に対する意見が出来るようにしている。	管理者は、職員との全体会議を定期的で開催し、日々ケアの場面で、職員が気づいた利用者の状態を話し合っている。介助の改善点や利用者の思いや意向等について意見を検討し、ホームの運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを作成。各自の目標に対して一年間の服務、反省を行ない、半期に一度、管理者、計画作成担当者と職員との面談を行い、助言する。又、管理者は常に職員の悩み等を聞く努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修を法人内のプログラム中心に行い、必要に応じ事業所内でも行なっている。職員の立場等に応じ研修に参加したり、外に向けての発表も参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループにある、もう一つのグループホームとの共同の作業や訪問等を行っている。又、今後協議会を通じて同業者の担当訪問を提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回来所時より、施設契約・相談にて利用者の個々のニーズを聞く機会を作る。本人自身の不安や悩み事等も傾聴し受け止める努力をしている。利用までに幾度か訪問してもらいコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回利用時より担当者をつけ、ご家族からの相談等に耳を傾け、要望を受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回にて出来るだけ本人の来所をご家族に願い、利用者の身心の状態を見極め、ニーズに合うような事業所外でのサービス(行事、習字、移動図書館等)を提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間を大切にしている。その時々状況に応じて共に理解を深めて関係を築いている。また、子ども達とふれあう機会を提供し、交流を持ったり、教えてあげたり出来るようにした。スタッフも同様に生活の場でさまざまな知恵を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお手紙、電話等で日頃の様子を報告した。様子の変化があった時やケアプランの作成時の要望等を聞く際に一緒に今後の方針を考えていくようにした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に馴染みのある場所に寄ったりして昔を思い出して頂いたりした。また、そういう場所を選んで外出した。面会者へは、居室にてゆっくりお話し出来るような声掛けや対応に努めた。	昔からの知人や親戚・友人が気楽にホームを訪れ、居室でゆっくり会話ができるよう支援している。馴染みの商店、薬局やスーパーへ、個別の希望に沿って職員と外出し、その際に買い物も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味のあう人同士で色塗りやカラオケ、歌の練習、裁縫、おやつ作り等をスタッフと一緒に交じって行った。そうして、良い関係作りが提供できるよう努めた。また、気の合う人と食事やコミュニケーションがとれるよう席の配置にも気を付けた。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じたり、利用者やご家族に可能な限り法人内の催し物(行事、講演会等)に参加して頂けるよう連絡や通知を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日常会話や仕草、センター方式などから知り得た情報にて把握に努めた。困難な場合は、家族にこれまでの状況や様子を聞き、本人の気持ちになり考えた。	本人との日常会話のなかで、希望・意向などを把握している。把握した思いや情報等をセンター方式のシートに記録し、全職員で共有している。困難な人は、小さなサインにも気配りして汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に昔の様子や状況をお聞きしたり、本人との日常会話で聞いたり、カルテを見たりして把握した。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録をしっかりと行い、日々の変化等にもスタッフ全員が把握できるようにした。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人から意見を聞いたりした。そして、毎月のユニットの会議で話し合いスタッフみんなに意見を聞いた。そして、課題やケアのあり方について話し合い介護計画作成に活かした。	利用者の変化を詳細に観察し、各職員の気づきや意見を取り入れ、介護計画を作成している。本人・家族や法人の専門職とも話し合い、3ヶ月に1回の定時見直しと、状態の変化に応じて随時見直している。	身近で具体的な支援を、介護計画に反映させ、利用者が、地域でその人らしく暮らせるような視点での、介護計画作成に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子やケアの様子・結果・気付いた点やアイデア等をカルテに記入した。そして、スタッフ全員が情報を共有出来るようにした。そして、ケアプラン作成、見直しの時に担当者がいかせるようにした。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣に病院等の連携施設があるため、心身の状況に合わせて柔軟なサービスが受けられるように協力して取り組んでいる。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣商店への買物や畑の手伝い、行事(落語研究会、大正琴、三味線、民謡等)の受け入れ、それに対する働きかけを実施。又、防災体制構築の為に消防署との連携も出来ており、地域防災協会にも加盟している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。又、ご家族の希望の病院の利用案内をしている。尚、医療法人が母体である為、月2回の往診、週3回の看護師の訪問があり、適切な医療を受けられる体制をとっている。	全利用者は、経営母体病院をかかりつけ医としている。月に2回の往診と、24時間体制の看護によって、利用者の健康管理と、適切な医療を提供している。総合病院への受診には、家族と職員が同行し、医療情報も把握し、日々の支援に活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に近隣の診療所、入院施設のある病院があり看護職との連携、相談が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に近隣の診療所、入院施設のある病院があり、医師や看護師とも連絡、相談体制が出来ている。又、他法人への入院等の機会は頻りに面会している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、医療的処置が必要になった場合は他施設や病院への転出を依頼することについてご家族に説明している。又、重度化や終末期のあり方については、ご家族を含め、かかりつけ医及び法人内の病院の医師等と話し合うように努めている。	看取りの指針があり、入居時に家族に説明し、同意を得ている。医療行為が発生した時点で、法人内の他施設へ移ることを方針としている。家族と関係者が方針を共有し、連携を密にしながら、安心して納得が得られる終末期となるよう、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の看護師の指示のもと、月一回、医療に関する委員会を開き、勉強会を行うようにしている。又、救急救命士による心肺蘇生等の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法定の防災訓練を消防署職員立ち合いのもとに実施。又、事業所内に委員会を設置し、訓練に職員の参加を働きかけ、利用者も共に訓練に参加して頂く。地域住民にも訓練に参加を呼び掛けている。	年2回の消防署立ち合いの訓練を実施し、利用者の避難誘導を行っている。散水ホースや消火器の使用法など、利用者も共に訓練に参加し、住民も交えて災害に対する協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、尊敬の念を持って言葉掛けや対応をしている。プライバシーをしっかりと守り対応している。	会議やミーティングで、プライバシーや個人情報の保護について確認している。着替えや入浴時の脱衣・トイレ誘導などにも注意し、居室への立ち入りの際もノックを行い、言葉遣いにも、その人の尊厳を重視するよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、担当者を中心にコミュニケーションを図っている。その際に、希望を聞くなど本人の状態に合わせて工夫し対応している。そうした自己決定の働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にしている。また、一日一日の過ごし方を会話の中から聞いたり、希望を聞いたりしてその人らしい生活が送れるようにしている。レクを行う際にはお誘いして自己決定してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな色の服を聞いたり、カルテ等で把握し、またスタッフと一緒に決めてもらうようにしている。家族や本人の希望を尊重し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時嗜好調査実施。一緒に食事をし観察し把握したり、会話から好みを聞いたり家族に聞いたりした。好き嫌いが多い方は本人・家族の要望を聞いて個別に食べられる物を食べて頂き栄養管理した。下膳できる人は台所まで運んでもらい皿拭きは当番制にしたり盛り付け・配膳・テーブル拭きも手伝ってもらった。	利用者の好みや希望に合わせた献立となっている。ホームの畑で採れた野菜や芋の皮むき、もやしの筋とりなど、利用者に手伝ってもらい、食事を作っている。職員も同じテーブルに着き、見守りながら同じ食事を楽しく味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	5色健康法(食事に白・黒・赤・黄色・緑の食べ物を取り入れること)を実践し記入している。副食をよく残される人には主食を多くついたりして食事量の確保やお茶をあまり飲まない人やおやつを食べない人には牛乳やジュースで水分量を確保している。個々にお茶の温かいの等にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを促している。全員寝る前には必ず行っている。入れ歯等管理出来ない人にはスタッフがポリドントを入れ管理している。必要は人には介助を行いうがいや声掛け等行っている。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄チェック表を作成し、パターンの把握を行っている。時間を見てトイレ誘導や声掛けを促したり、トイレに座る習慣をつけている。	個々の排泄時間を把握し、職員のごまめなトイレ誘導で、入居時とほぼ変わらず、排泄の自立が維持できている。3分の1ほどの利用者は、布パンツを使用し、自力でトイレに行ける習慣になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を確認している。普段から水分を多く取れるように促したり、便秘時は牛乳やバナナ・食物繊維を摂るなどの対応をしている。また、体を動かす等の運動やお腹マッサージ等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入る順番や時間帯、ゆっくり入りたい方には午後から入ってもらいゆっくりと楽しんでもらっている。個々の湯加減等にも対応している。	入浴は週3回行い、少しでも入浴が楽しみとなるよう、その日の雰囲気や気分に合わせて、入浴剤を変えている。一番風呂に入りたい利用者が多いが、公平な順番になるよう、順番表を貼り、利用者に理解してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声掛けにて午後から休息をとってもらったり、入浴日や体調などを見てスタッフ側から対応を促したりした。不眠者にはホットミルクを提供したり、一緒に寝床にて見守り付き添ったりして安心できる環境に努めた。日中の居眠り時には起こすようにしてレク等を一緒に行い夜間しっかり休めるようにした。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテ内に処方箋を綴じており、必要に応じて確認したり、ナースやドクターに確認している。服薬が出来ない人には本人に合った支援を行っている。(確認・手渡し・手に出す・口に入れる等)。眠剤や精神薬、臨時薬等の症状の変化の確認も申し送り等を行いみんなが把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来る事は違うが、その人に応じた楽しみが見出せるように配慮している。ミーティング等でみんなで話し合うなどしている。(掃除・洗濯畳み・おやつ作り・配膳・下膳・テーブル拭き・新聞畳み・荷物運び・皿拭き・色塗り・裁縫・農作業・カラオケ・合唱・散歩・買い物・外出)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の外出で行きたい所をみんなに聞いた。カラオケやボーリング等にも行った。また、喫茶や買い物、散歩等の支援も行った。遠足やなかなかスタッフとのいけない所へは家族の協力をお願いして外出してもらった。地域の行事や学校訪問、他施設の行事へも参加した。	外出の機会は多く、花見・いちご狩り・地域発表会・梅見など季節の行事に、職員と共に出かけている。遠方には、家族と協力して外出を支援している。また、歩く速さ別にグループ分けして、日々の散歩に出かけている。	

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる人は所持して頂いている。家族も承諾している。出来ない人はスタッフが鍵のついたロッカーにて保管している。家族にも承諾してもらっている。ほしい物があれば言ってもらいスタッフが買ったり、本人と買物で購入したり、家族に了解を得た。喫茶で楽しんでお茶をされたりした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はすべて手渡ししている。電話の利用も家族から本人に取り次ぎも行っている。自分で掛けれる人はスタッフがかけて本人に代わり話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは場所が分かるようにトイレという札をつけている。スタッフと利用者が一緒に作った小物や、季節感ある貼り絵やカレンダー、南家と分かるようみんなの集まる目のつく場所食堂に飾ったりしてある。和室もあり、まぶしくないように間接照明を使用している。不快な音やにおい等にも気をつけている。	利用者がどの場所でも自由に過ごせるように、安全に動ける動線を確保し、明るい日差しが入るリビングとなっている。居室への廊下は手すりが設置され、洗面所とトイレも車椅子でも使用できる広さがあり、利用者が重度化しても使いやすい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがありみんなで話しをしたりレクをしたり、歌を歌ったり、テレビを見たりできるようになっている。一人で音楽を楽しめるような席の配置等にも配慮している。ホームに畑があり農作業や中庭での夕涼み等気に合った仲間同士で過ごせる場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	兄弟や家族の写真や仏壇、趣味のプラモデルやぬいぐるみ、小物、椅子、ソファ、テレビ、ダンス、お茶が飲めるようポットや飲み物、冷蔵庫など置いて個々に居心地がよいようにしている。入居時に本人が使っていた物を持ってきて頂くよう説明している。家族に協力して持ち込んで頂いている。	居室には、洗面所とベッドが備え付けてある。籐の椅子やダンスなど、使い慣れた家具が持ち込まれ、家族の写真や作品・手芸品が居室の壁に飾られている。衣類の冬物と夏物の入れ替えは、家族と職員が一緒に行い、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、お風呂等に手すりを設置している。また、残存機能を活用できるように個々に出来る事を見極め安全に行っている。(掃除・洗濯畳み・おやつ作り・配膳・下膳・テーブル拭き・新聞畳み・皿拭き・裁縫・荷物運び・農作業等)		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700476		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	グループホーム「ファミリーケア北方」(上の家)		
所在地	岐阜県本巣郡北方町柱本3丁目88番地		
自己評価作成日	平成22年11月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(上の家)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念は「家庭的な環境と地域住民との交流の元で楽しい生活を提供すること」である。日々理念に基づく行動が出来るよう職員は理念を記入した用紙を名札に携帯し遂行できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番の設置、小学生のボランティア受け入れ、母親と子供同士が触れ合える場の提供等、子供が遊びに来やすい場を作る。又、自治会長の支援により、町民運動会や消防訓練、祭り等、地域活動に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で北方の理念の報告、各種外出行事や地域への活動予定を報告する。特定高齢者に対する介護予防事業への参加等。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。入居者状況、事業所独自の活動報告、積極的な意見交換を行っている。「地域にある施設」ということを理解して頂けるよう地についた運営、職員の力量の向上に努めるべきとの意見に地域活動への参加、各研修の参加を積極的に行い、向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所での行事等に対しても案内をお渡しし、参加の協力を頂く際、意見や理解を求め、事業所内のサービス向上に努めている。又、運営推進会議に出席頂き、意見を頂く。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束については、最低限してはいけないルールだと把握しており、行われたことはない。又、法人で行われる研修にも参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々職員は虐待に対して、してはいけない行為であると把握している。又、新人研修や法人で行われる研修に参加している。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者に成年後見制度を受けている者はいないが、職員間で過去に制度を受けていた利用者の情報共有や研修等で制度的な理解を深め学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず事前訪問を実施。本人の状態を家族やケアマネジャー等から聞き取り、確認する。契約時には重要事項説明書を参照。料金の説明を実施。又、申込時はパンフレットによる概算の説明もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	顧客満足度調査を実施し、苦情や要望を聞き対応している。又、契約時に重要事項説明書にて公的窓口を説明。玄関先には苦情受付BOXを設置している。来所時にはご家族へこちらから声を掛けて話ができる雰囲気作りを、面会の少ないご家族には定期的に電話にて状況を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自ら法令集等に目を通し、リーダーミーティングを定期的に行い、その内容を各職員に説明して職員の運営に対する意見が出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを作成。各自の目標に対して一年間の服務、反省を行ない、半期に一度、管理者、計画作成担当者と職員との面談を行い、助言する。又、管理者は常に職員の悩み等を聞く努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修を法人内のプログラム中心に行い、必要に応じ事業所内でも行なっている。職員の立場等に応じ研修に参加したり、外に向けての発表も参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループにある、もう一つのグループホームとの共同の作業や訪問等を行っている。又、今後協議会を通じて同業者の担当訪問を提案している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回来所時より、施設契約・相談にて利用者の個々のニーズを聞く機会を作る。本人自身の不安や悩み事等も傾聴し受け止める努力をしている。利用までに幾度か訪問してもらいコミュニケーションを図っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回利用時より担当者をつけ、ご家族からの相談等に耳を傾け、要望を受け止めるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回にて出来るだけ本人の来所をご家族に願ひ、利用者の身心の状態を見極め、ニーズに合うような事業所外でのサービス(行事、習字、移動図書館等)を提供する。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とは過ごす時間を大切に、その場の状況に応じて互いの理解を深め、関係を築いている。又、子育て支援事業と協力し合い、子供とふれあう機会を日常的に設け、子供達と交流を持つ中で利用者が教える立場になる機会を提供している。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子をご家族に報告することで本人の現状を知って頂き、今後の方針を一緒に考えている。都合により面会が困難なご家族には、月に一回は電話及び手紙を出し、近況報告を行なっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に馴染みの場所に寄り、昔を思い出して頂く。又、ご友人等、面会者への心配りを行うことで、関係が途切れることのないよう努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や、余暇活動を通じて趣味の合う仲間作りを支援することで、より良い関係作りが出来るような場所や機会を提供し支援している。			

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じたり、利用者やご家族に可能な限り法人内の催し物(行事、講演会等)に参加して頂けるよう連絡や通知を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式からの情報、日々の本人の呟きやふとした仕草等から把握に努めるようにしている。意思疎通が困難な場合は、ご家族に協力を依頼して、これまでの状況をお聞きし、本人の気持ちになり考える。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との日常会話やご家族の面会時に、昔の話を聞いて把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に日々の過ごし方を記録に残し、職員全員が現状の把握が出来るよう努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族に意見を求め、その後ユニット内でのカンファレンスにてケアのあり方について話し合い、介護計画作成にいかしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録をカルテへ記入し、全職員が情報を共有している。その情報を介護計画見直しの際にいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣に病院等連携施設があり、利用者の身心の状況等に合せて柔軟的なサービスに努めるようにしている。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣商店への買物や畑の手伝い、行事(落語研究会、大正琴、三味線、民謡等)の受け入れ、それに対する働きかけを実施。又、防災体制構築の為に消防署との連携も出来ており、地域防災協会にも加盟している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。又、ご家族の希望の病院の利用案内をしている。尚、医療法人が母体である為、月2回の往診、週3回の看護師の訪問があり、適切な医療を受けられる体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に近隣の診療所、入院施設のある病院があり看護職との連携、相談が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に近隣の診療所、入院施設のある病院があり、医師や看護師とも連絡、相談体制が出来ている。又、他法人への入院等の機会は頻りに面会している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、医療的処置が必要になった場合は他施設や病院への転出を依頼することについてご家族に説明している。又、重度化や終末期のあり方については、ご家族を含め、かかりつけ医及び法人内の病院の医師等と話し合うように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の看護師の指示のもと、月一回、医療に関する委員会を開き、勉強会を行うようにしている。又、救急救命士による心肺蘇生等の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法定の防災訓練を消防署職員立ち合いのもとに実施。又、事業所内に委員会を設置し、訓練に職員の参加を働きかけ、利用者も共に訓練に参加して頂く。地域住民にも訓練に参加を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格や能力、リズムを把握し、言葉遣いに注意を払って声かけを行うよう、日頃より尊敬の念を持って対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、担当者を中心にコミュニケーションを図っている。又、意思疎通が困難な方に対しては、本人の健康状態や日頃の些細な言動等から思いを汲み取る工夫をし、自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話や行動の中から本人のペースや希望を把握し、出来る限り本人の希望に沿ったその人らしい一日を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に関しては、本人の希望を尊重している。意思決定が困難な方に対しては、ご家族からの希望も尊重し、その人らしい身だしなみ出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好調査を実施。日々、利用者と共に食事をして会話の中から好みを聞いている。又、食事の準備(台拭き、配膳、下準備等)や片付け(台拭き、食器洗い、皿拭き等)も利用者の個々の能力に合わせて共に行い、食事に楽しみを持って頂くよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	5色健康法(食事に白、黒、赤、黄色の食べ物を取り入れること)を実践し、体調に合わせた食事形態を工夫している。又、食事・水分摂取量を記録して、一日を通じて栄養が確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促している。必要な利用者には声かけや介助を行い支援する。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排尿チェック表を作成し、パターンの把握を行っている。又、介助が必要な方は、定期的にトイレ誘導を行なうことによって排泄を習慣づけるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便チェック表を作成し、毎日確認している。又、普段から食事形態の工夫や水分摂取に努めている。便秘時は、医師や看護師の指示のもと、腹部マッサージや食物繊維を摂る等の対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一日おきの週3回実施。午前と午後で入浴時間を調整し、入浴の順番はその都度、利用者の要望や体調に合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や温度等を調整し、ユニット内の雰囲気落ち着かせるよう対応している。又、不眠者には日中の生活を見直すと共に、就寝前に希望者にはホットミルクの提供等、スムーズな睡眠を促すよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに処方箋を綴じており、必要に応じて確認している。服薬が自立できない方には、服薬の確認、手渡しをする等、本人に合わせた支援を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロアの掃き掃除、新聞たたみや洗濯たたみ、食事作り、皿拭き、植物の水やり等、個々の趣味や能力に合わせた役割を持って頂き、その人に応じた楽しみが見出せるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段行けないような場所へは定期的に外出の機会を持っている。又、普段からも買い物や近所の散歩等の支援も実施。ご家族やご友人との外出の機会も持てるよう支援し、出来る限り利用者の希望に沿うような配慮をしている。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方には所持して頂いている。自己管理が困難な方やご家族から依頼があった場合は職員が管理するが、買い物時は本人にお金を渡し支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用はご家族から本人に取り次ぎを行っている。自分で電話をかけることができる方はかけて頂いている。こちらに届いた手紙は本人に手渡しし、やり取りも本人の希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	眩しさを感じさせないよう間接照明を基本としている。不快な音には常に職員も気をつけている。温度設定は利用者の体調や要望に配慮する。又、馴染みの小物や観葉植物等を利用者の置きたい場所に安全を考慮しつつ配置し、生活感のある落ち着いた雰囲気作りを工夫して居心地良く過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせ、時には独りになれる場所として、ソファ、和室、玄関先(ベンチ)、ベランダ等少人数で集まるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人が使い慣れていた物(布団、タンス、椅子、その他の小物等)をお持ち頂くよう説明している。又、必要に応じてご家族に協力して頂き、必要物品を持ち込んで頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉に張り紙をしたり、個々の好みの小物を居室の扉に飾ったりすることで目印をつけ、場所を分かりやすく工夫している。又、トイレや廊下、浴室等に手すりを設置し、安全に、かつ、出来る限り残存機能を活かした自立支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700476		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	グループホーム「ファミリーケア北方」(北の家)		
所在地	岐阜県本巣郡北方町柱本3丁目88番地		
自己評価作成日	平成22年11月19日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(北の家)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念は「家庭的な環境と地域住民との交流の元で楽しい生活を提供すること」である。日々理念に基づく行動が出来るよう職員は理念を記入した用紙を名札に携帯し遂行できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番の設置、小学生のボランティア受け入れ、母親と子供同士が触れ合える場の提供等、子供が遊びに来やすい場を作る。又、自治会長の支援により、町民運動会や消防訓練、祭り等、地域活動に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で北方の理念の報告、各種外出行事や地域への活動予定を報告する。特定高齢者に対する介護予防事業への参加等。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。入居者状況、事業所独自の活動報告、積極的な意見交換を行っている。「地域にある施設」ということを理解して頂けるよう地についた運営、職員の力量の向上に努めるべきとの意見に地域活動への参加、各研修の参加を積極的に行い、向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所での行事等に対しても案内をお渡しし、参加の協力を頂く際、意見や理解を求め、事業所内のサービス向上に努めている。又、運営推進会議に出席頂き、意見を頂く。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束については、最低限してはいけないルールだと把握しており、行われたことはない。又、法人で行われる研修にも参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日々職員は虐待に対して、してはいけない行為であると把握している。又、新人研修や法人で行われる研修に参加している。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者に成年後見制度を受けている者はいないが、職員間で過去に制度を受けていた利用者の情報共有や研修等で制度的な理解を深め学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず事前訪問を実施。本人の状態を家族やケアマネジャー等から聞き取り、確認する。契約時には重要事項説明書を参照。料金の説明を実施。又、申込時はパンフレットによる概算の説明もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	顧客満足度調査を実施し、苦情や要望を聞き対応している。又、契約時に重要事項説明書にて公的窓口を説明。玄関先には苦情受付BOXを設置している。来所時にはご家族へこちらから声を掛けて話ができる雰囲気作りを、面会の少ないご家族には定期的に電話にて状況を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自ら法令集等に目を通し、リーダーミーティングを定期的に行い、その内容を各職員に説明して職員の運営に対する意見が出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを作成。各自の目標に対して一年間の服務、反省を行ない、半期に一度、管理者、計画作成担当者と職員との面談を行い、助言する。又、管理者は常に職員の悩み等を聞く努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修を法人内のプログラム中心に行い、必要に応じ事業所内でも行なっている。職員の立場等に応じ研修に参加したり、外に向けての発表も参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループにある、もう一つのグループホームとの共同の作業や訪問等を行っている。又、今後協議会を通じて同業者の担当訪問を提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回来所時より、施設契約・相談にて利用者の個々のニーズを聞く機会を作る。本人自身の不安や悩み事等も傾聴し受け止める努力をしている。利用までに幾度か訪問してもらいコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回利用時より担当者をつけ、ご家族からの相談等に耳を傾け、要望を受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回にて出来るだけ本人の来所をご家族に願ひ、利用者の身心の状態を見極め、ニーズに合うような事業所外でのサービス(行事、習字、移動図書館等)を提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方との過ごす時間を大切に過ごし、お互いに理解を深め、関係を築いている。又、生活の場で分からないことは利用者の方に質問し、色々教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族の方に毎日の様子を報告し、今後の方針を考えている。毎月1回は手紙を出し、家族の方に近況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の時や散歩の時に馴染みの場所に出かけて行き、昔を思いだしてもらっている。友人や面会者の方とはゆっくりと話が出来るよう、落ち着いた場所や時間を提供できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味の合う仲間作りができるようスタッフが間に入りコミュニケーションを図って頂ける様心掛けた。又、気の合う仲間同士で過ごして頂ける様、席の配置にも気をつけた。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じたり、利用者やご家族に可能な限り法人内の催し物(行事、講演会等)に参加して頂けるよう連絡や通知を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や、センター方式から情報等から把握につとめるようにしている。困難な方の場合には賀家族からの協力を依頼して、本人の気持ちになり考える。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時、本人との日常会話を基に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に毎日の記録をしっかりと行い、スタッフ全員が日々の変化等の把握が出来るように努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から意見を聞き、ユニット内のミーティングにて話し合い、ケアの仕方等決め、介護計画作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の個別記録をカルテに記入し、スタッフ全員が情報を共有できるようにしている。ケアプラン作成、変更時に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣に病院等の連携施設があるため、心身の状況に合わせて柔軟なサービスが受けれるように協力して取り組んでいる。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣商店への買物や畑の手伝い、行事(落語研究会、大正琴、三味線、民謡等)の受け入れ、それに対する働きかけを実施。又、防災体制構築の為に消防署との連携も出来ており、地域防災協会にも加盟している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。又、ご家族の希望の病院の利用案内をしている。尚、医療法人が母体である為、月2回の往診、週3回の看護師の訪問があり、適切な医療を受けられる体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に近隣の診療所、入院施設のある病院があり看護職との連携、相談が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に近隣の診療所、入院施設のある病院があり、医師や看護師とも連絡、相談体制が出来ている。又、他法人への入院等の機会は頻りに面会している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、医療的処置が必要になった場合は他施設や病院への転出を依頼することについてご家族に説明している。又、重度化や終末期のあり方については、ご家族を含め、かかりつけ医及び法人内の病院の医師等と話し合うように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の看護師の指示のもと、月一回、医療に関する委員会を開き、勉強会を行うようにしている。又、救急救命士による心肺蘇生等の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法定の防災訓練を消防署職員立ち合いのもとに実施。又、事業所内に委員会を設置し、訓練に職員の参加を働きかけ、利用者も共に訓練に参加して頂く。地域住民にも訓練に参加を呼び掛けている。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より尊敬の念を持ち、プライバシーに配慮した対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より担当者を中心にコミュニケーションを図り、本人の願いや希望を聞いている。又、生活に関するすべての事は本人に決めてもらうように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の様子や会話から希望やペースを把握し、大切にしている。希望から本人らしい生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の方との会話を通して好きな服や色等、把握するようにしている。本人の希望を尊重できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好調査を行っている。コミュニケーションの際に本人の好みを聞いている。食事の手伝い、配膳、片付け等利用者の方の出来る事は手伝って頂いている。食事の際は、スタッフとコミュニケーションを図り、楽しく食事して頂ける様心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	5色健康法(食事に白、黒、赤、黄色の食べ物を取り入れること)実施している。食事や水分量を記録し、体調が悪い方には食事の形態を工夫して提供している。水分量の少ない方には居室に水筒を置き、こまめに摂取していただけるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアの声かけを行っている。入れ歯の管理が出来ない方には介助スタッフが管理している。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排尿チェック表を作成し、パターンの把握を行っている。介助が必要な方には定期的にトイレ誘導を行い、排泄の失敗の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェック表を確認している。便秘の方には、水分を多く摂取していただいたり、食物繊維を多く含む食事の提供を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回実施。入浴の順番は利用者の要望に対応し、入浴時間も本人に任せ、ゆっくりと入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やユニットの温度調節をこまめに行い、利用者様の状態に合わせてスタッフから声掛けや対応を行い、睡眠を促したりした。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに処方箋を綴じており、必要に応じて確認している。服薬が出来ない方には、手渡しや声掛け等、その方に合った支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掛け、皿拭き、食事の準備やカレンダー作り等一人一人に合った役割をスタッフ同士で話し合いながら提供している。又、色塗りやオセロ、カラオケ、散歩等趣味を見つけただけのようし支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から利用者の方から情報を収集し、外出先を決めたりしている。又、季節に合った場所(バラ公園、桜、百梅園等)にも出掛ける機会をもっている。遠足等ご家族の方とも外出の機会が持てるよう支援している。		

岐阜県 ファミリーケア北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方には家族の許可を得て、所持していただいている。自己管理が困難な方はスタッフが管理しているが、必要な物があれば一緒に買い物に行き購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は自分で出来る方は掛けてもらっている。家族からの取り次ぎを行っている。こちらに届いた手紙は本人に手渡しし、出される手紙はスタッフがポストに出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作った絵手紙、カレンダー、のれん等を飾っている。又散歩等に摘んできた花を目の届く場所に飾り、落ち着いた環境作りが出来るよう配慮している。間接照明を基本とし、温度は利用者の体調、状態に合わせて設定している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて気の合う利用者同士で作業、話等をして頂いている。ホールとは離れた位置にソファを設置し、音楽を聴いていただいたり、一人で過ごせるようスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れていた物(布団、タンス、小物等)や本人が思い出のある物(写真、日記、人形等)をお持ちいただくよう家族に説明し、持ってきていただくようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下に手すりを設置している。又、残存能力を活かした支援を行えるよう一人一人に合ったケアができるよう努めている。トイレや居室等分りにくい場所には目印(花やネームプレート、張り紙等)をつけている。		